

2020年3月16日

各位

会社名 OATアグリオ株式会社

代表者名 代表取締役社長 加藤 修治

(コード: 4979、東証第一部)

問合せ先 取締役 岡 尚

(TEL. 03-5283-0262)

(訂正)「2019年12月期通期連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ」の一部訂正について

2020年2月14日に発表した「2019年12月期通期連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ」の記載内容に一部訂正がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 訂正の理由

2020年2月14日の決算発表後に、当社の会計監査人である有限責任監査法人トーマツと協議の上、以下の理由により決算発表内容の訂正することと致しました。そのため2020年2月14日に公表の「2019年12月期通期連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ」につき、下記の訂正をすることと致しました。

2. 訂正の内容

該当箇所に 線で表示しております。

なお、訂正内容の詳細につきましては、別途本日(2020年3月16日)付で公表しております「(訂正・数値データ訂正)「2019年12月期決算短信[日本基準](連結)の一部訂正について」にて開示しておりますのでご参照ください。

【訂正前】

1. 2019 年 12 月期連結業績予想と実績値との差異(2019 年 1 月 1 日~2019 年 12 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主 に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想発表(A)	21, 996	1, 093	803	57	17 円 92 銭
実績値(B)	<u>21, 930</u>	<u>1, 057</u>	<u>813</u>	<u>33</u>	6円14銭
増減額 (B-A)	<u>△66</u>	<u>△35</u>	<u>10</u>	<u>△23</u>	_
増減率(%)	<u>△0.3%</u>	<u>△3.3%</u>	<u>1.3%</u>	<u>△41.8%</u>	_
(ご参考) 前年実績 (2018 年 12 月期)	15, 278	1,762	1, 757	1, 257	232 円 42 銭

【訂正後】

1. 2019 年 12 月期連結業績予想と実績値との差異(2019 年 1 月 1 日~2019 年 12 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主 に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想発表(A)	21, 996	1, 093	803	57	17円92銭
実績値(B)	<u>21, 909</u>	<u>1,077</u>	<u>837</u>	<u>4</u>	0円87銭
増減額 (B-A)	<u>△86</u>	<u>△15</u>	<u>34</u>	<u>△52</u>	_
増減率 (%)	<u>△0.4%</u>	<u>△1.5%</u>	4.3%	<u>△91.8%</u>	<u> </u>
(ご参考) 前年実績 (2018 年 12 月期)	15, 278	1,762	1, 757	1, 257	232 円 42 銭

【訂正前】

2. 差異発生の理由

2019年12月17日開示の「連結子会社の解散に関するお知らせ」に公表した通り、当社の連結子会社であるOATアグリフロンティアの解散に伴い発生した固定資産の減損及び評価損等が84百万円減少したこと、スペインの子会社で発生した製品の薬害に対する損害賠償金を134百万円計上したことなどにより、前回発表の数値から特別損失が52百万円増加したことによります。

【訂正後】

2. 差異発生の理由

2019 年 12 月 17 日開示の「連結子会社の解散に関するお知らせ」に公表した通り、当社の連結子会社であるOATアグリフロンティアの解散に伴い発生した固定資産の減損及び評価損等が 84 百万円減少したこと、スペインの子会社で発生した製品の薬害に対する損害賠償金を 134 百万円計上したことなどにより、前回発表の数値から特別損失が 52 百万円増加したことによります。

加えて以下の理由により、差異が発生いたしました。

(1) 売上高及び売上原価の誤謬の訂正

当社の連結子会社のOATアグリフロンティア(株)と非連結子会社の(株)養液土耕栽培研究所との内部取引(製品売買取引)及び当社と(株)養液土耕栽培研究所との内部取引に関する会計処理に誤謬があることが判明しました。この訂正により、売上高が20百万円減少し、売上原価が18百万円減少しました。これらの結果、売上総利益及び営業利益が2百万円減少しました。

(2) 売上原価の誤謬の訂正

当社連結子会社において、決算発表後に一部修正があり、たな卸資産に含まれる未実現利益に誤謬が あることが判明しました。この訂正により売上原価が7百万円減少し、売上総利益及び営業利益が7百 万円増加しました。

(3) 販売管理費の誤謬の訂正

当社において、費用の期間按分につき、決算発表後に誤謬があることが判明しました。この訂正により販売管理費が11百万円減少し、営業利益が11百万円増加しました。

(4)貸倒引当金繰入額の誤謬の訂正

当社において、決算発表後の会計監査人からの指摘により、貸倒引当金繰入額に誤謬があることが判明しました。この訂正により貸倒引当金繰入額が4百万円減少し、経常利益が4百万円増加しました。 (5)減損損失の誤謬の訂正

当社の鳴門工場の一部設備につき、決算発表後の会計監査において、固定資産の減損に関して見解の相違があり、会計監査人と協議を重ねた結果、訂正すべきとの結論に至りましたので、訂正いたしました。当社の単体決算において減損損失47百万円を計上することとなった結果、税金等調整前当期純利益が47百万円減少致しました。

(6) 特別損失の科目表示の誤謬訂正

当社において、決算発表後に特別損失の科目表示に誤謬があることが判明しました。この訂正により、損害賠償引当金繰入額が19百万円減少し、減損損失が56百万円増加し、その他が37百万円減少しておりますが、損益には影響はございません。

(7) 法人税等の誤謬の訂正

上記(1)~(6)の訂正の結果、当社及び当社連結子会社において、法人税等の再計算が必要となり訂正を致しました。その結果、法人税等が4百万円増加することとなりました。

以上の修正により、2019 年 12 月 17 日公表いたしました 2019 年 12 月期 (2019 年 1月 1日~2019 年 12 月 31 日) の通期連結業績予想と比較して、売上高が 21,996 百万円から 21,909 百万円の 86 百万円減少、営業利益が 1,093 百万円から 1,077 百万円の 15 百万円減少、経常利益が 803 百万円から 837 百万円の 34 百万円増加、親会社株主に帰属する当期純利益が 57 百万円から 4 百万円の 52 百万円減少となりました。